

令和元年度 第 12 回入学式式辞

平成から令和と年号が代わって半年が経過したこの日、第 12 回入学式を挙行了しましたところ、佐世保市議会議員長野孝道様、長崎国際大学学長中嶋憲一郎様をはじめ、多くの皆様が駆けつけてくださいました。心より御礼申し上げます。

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんが、700 を超える日本語学校の中から、長崎日本語学院を選んでくれたことに心から感謝いたします。今みなさんを前にして、みなさんの未来を切り開いていくお手伝いをする責任で、身の引き締まる想いでいっぱいです。

京都で染物をしている志村ふくみさんという方がいらっしゃいます。「さくら染」と呼ばれる淡いピンクのきれいな桜の色を染め付ける業で知られている方です。さくらの色を染め付けるのに用いるのは、さくらの花びらだろうと思っていたら、サクラの木の皮を使うそうです。しかも、この色は一年中どの季節でも染められるというのではなく、サクラの花を咲かせる直前の山桜の木の皮からしかとれないというのです。サクラの木は、木全体でさくら色を作り出すのです。

わたしたちが使うきれいなことばのひとつひとつがサクラの花びらに相当するとしましょう。花びらであるきれいなことばを支えているのは、ごつごつした樹の幹です。サクラの花を咲かせる直前の樹の幹は、その内部にさくらの色をもっているのです。みなさんは、みなさん方の母語を大事にしながら、日本語の背後に広がる世界を想像し、意味の深さを汲み取ってください。そしてきれいな日本語の花を咲かせてください。

日本語学習が成就した暁には、日本の高等教育機関への進学を、みなさん方全員が目指していくことを期待しています。私たち教職員は全力でみなさんを応援しますから、しっかり日本語の勉強に励んでください。

そして、将来は、みなさんが日本とみなさん方の母国との架け橋となってくれることを期待して私の式辞といたします。

令和元年 10 月 17 日
長崎日本語学院
校長 田淵幸親